

# アレルギーワクチンに関する 塩野義製薬との資本業務提携について

－ 抗IgE抗体誘導ペプチド「FPP004X」のオプション契約締結 －

2024年3月4日

株式会社ファンペップ

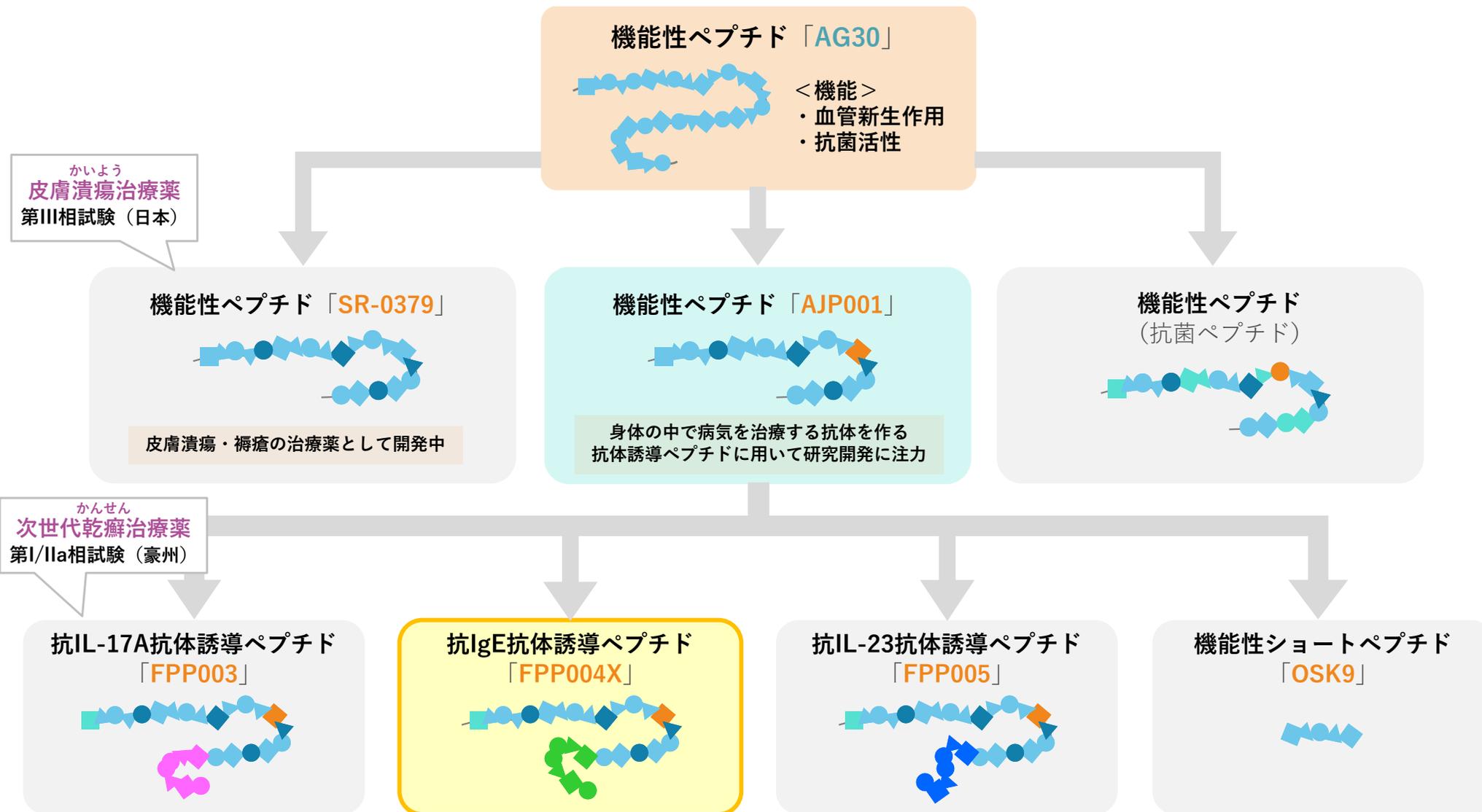
証券コード：4881



<http://www.funpep.co.jp>

1. ファンペップの技術概要
2. 資本業務提携の内容
3. 開発の状況
4. 抗体誘導ペプチド FPP004X

ヒト由来抗菌ペプチドAG30を起源とし、  
ペプチド加工ノウハウを強みに研究開発パイプラインを構築



## 感染症 予防ワクチン

感染症予防ワクチンとは、  
病気になる前にウイルスや細菌に対する  
抗体などを作り出し、病気にかからないように、  
あるいはかかっても軽くすむように予防をする

体にとって異物なので  
免疫が反応して抗体が作られる



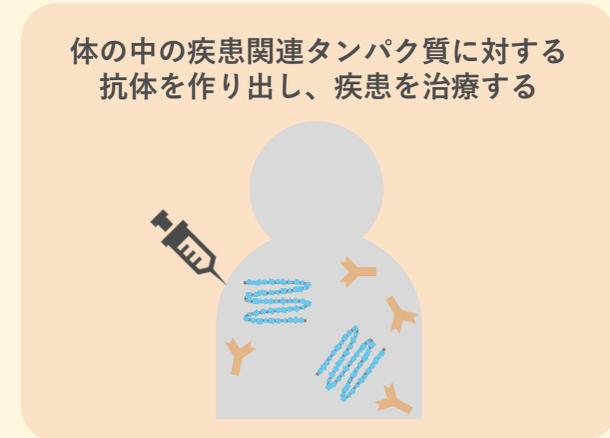
ワクチンには、ウイルス（全体や一部）等を用いる



## 治療ワクチン（抗体誘導ペプチド）

治療ワクチンとは、  
病気を発症した後に使い、  
病気を治す、あるいは  
症状を改善したり悪化を抑える

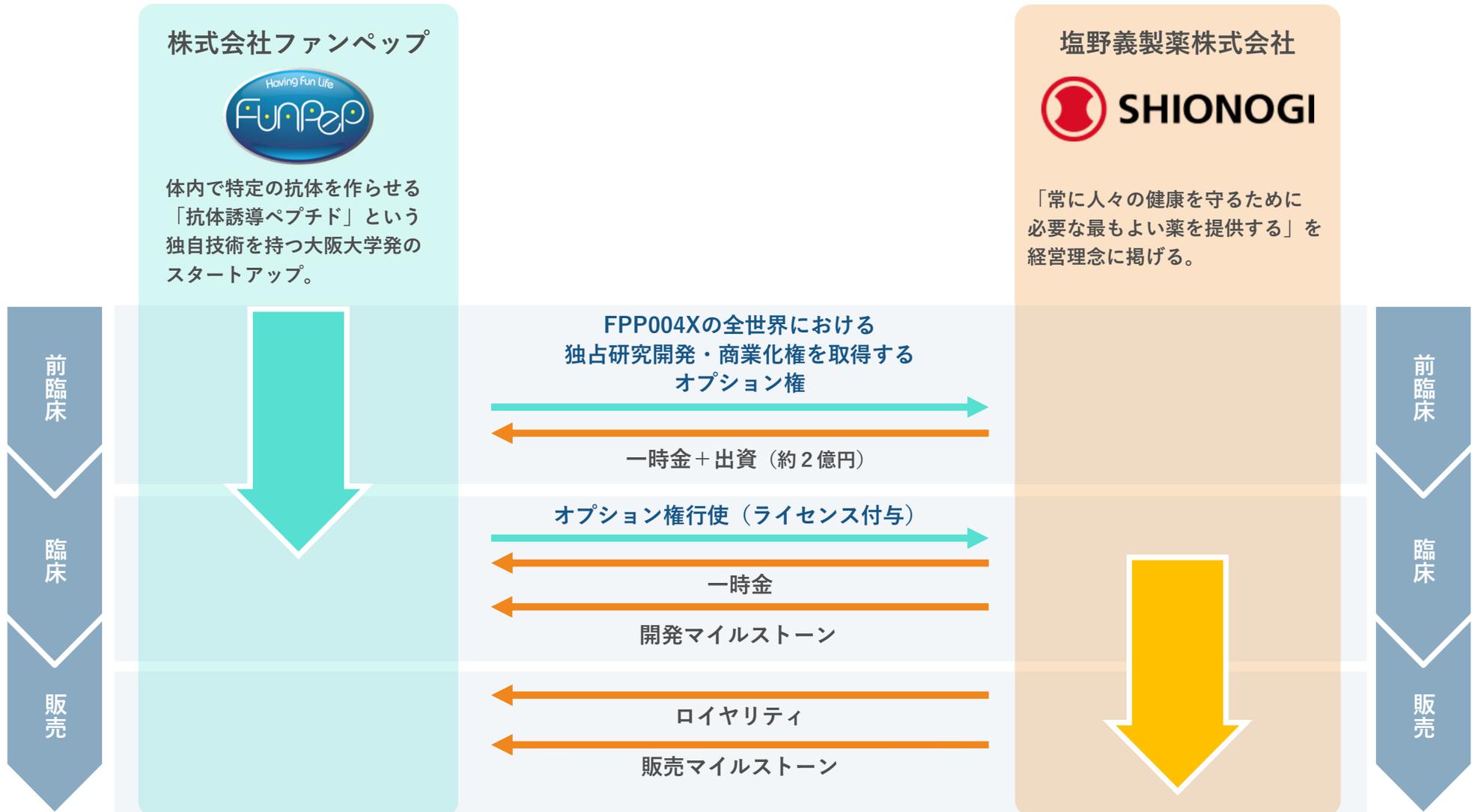
体の中の疾患関連タンパク質に対する  
抗体を作り出し、疾患を治療する



もともと体内にある物質に対して、抗体を作るのは難しいが、  
免疫を向上させるAJP001「ペプチド」を  
使用することで、抗体を作ることができる。

一般的にワクチンは病気を「予防」するものとされていたが、  
ファンペップの革新的な技術で、  
ワクチンを病気の「治療」に使用することが可能となる。

FPP004Xは、大阪大学大学院医学系研究科との共同研究のもとで当社が創製した開発化合物で、**IgE (Immunoglobulin E) を標的タンパク質とする抗体誘導ペプチド**です。  
現在、**花粉症 (季節性アレルギー性鼻炎)**を対象疾患として前臨床試験を実施しております。



IgE (Immunoglobulin E) を標的タンパク質とする  
抗IgE抗体誘導ペプチド  
「FPP004X」



2023年6月より

ファンペップにて、抗体誘導ペプチドの新規開発化合物として**前臨床試験を開始**

2024年3月

ファンペップと塩野義製薬にて**オプション契約を締結**

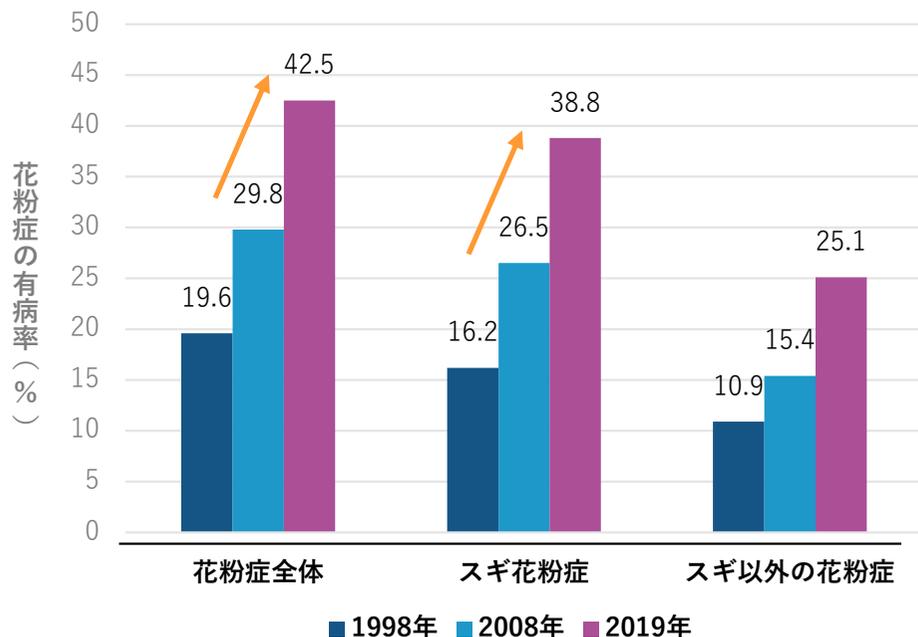
前臨床試験及び臨床試験を進め、  
花粉症ワクチンの早期実現に向けて研究開発を進めていく

2025年

花粉症(季節性アレルギー性鼻炎)を対象疾患として**日本国内での臨床試験を目指す**

花粉症は、有病率が**10年間で10%以上増加している国民病**  
 さらに**有病率の増加が危惧されている**

鼻アレルギーの全国疫学調査



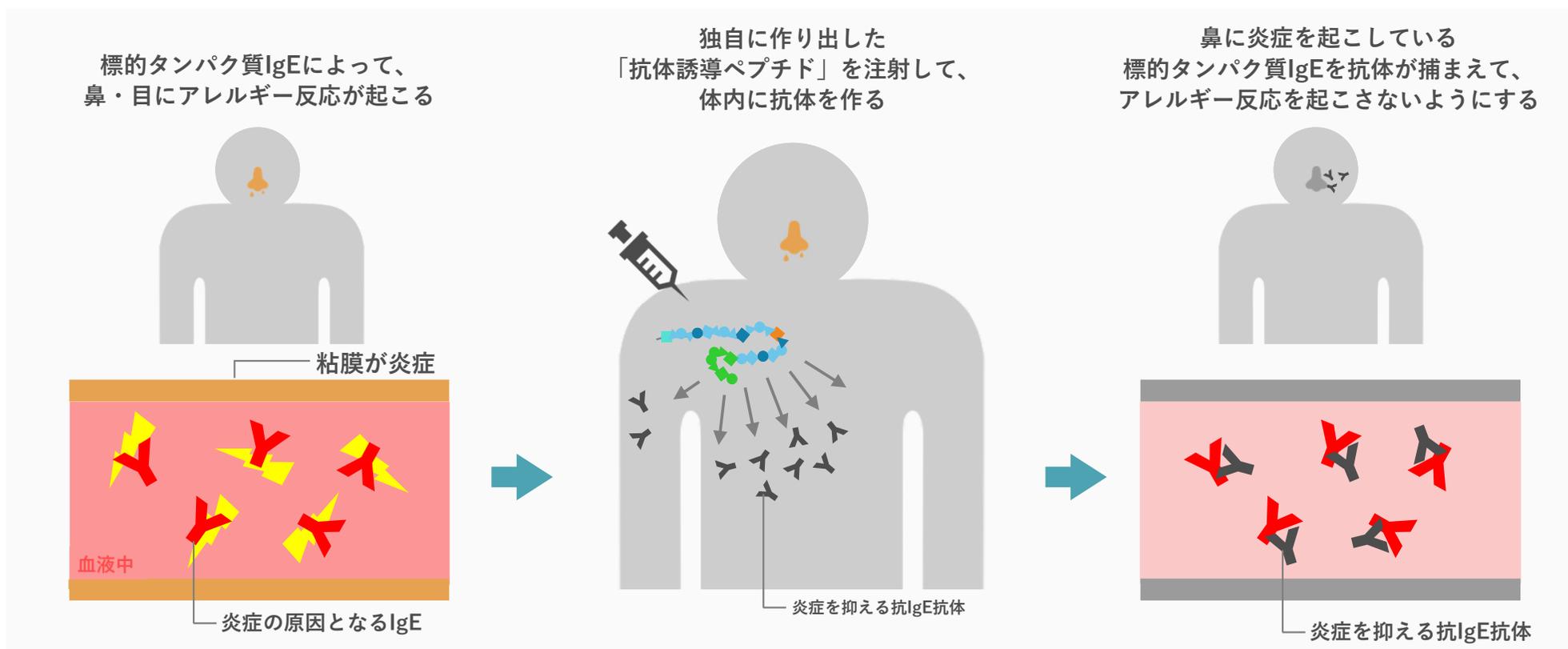
花粉症の有病率は、2019年時点では、  
 花粉症全体で42.5%、スギ花粉症で38.8%となっていて、  
 10年間で10%以上増加している。

「花粉症全体」「スギ花粉症」「スギ以外の花粉症」の  
 いずれも、1998年(20年前)の倍以上の有病率になっている。

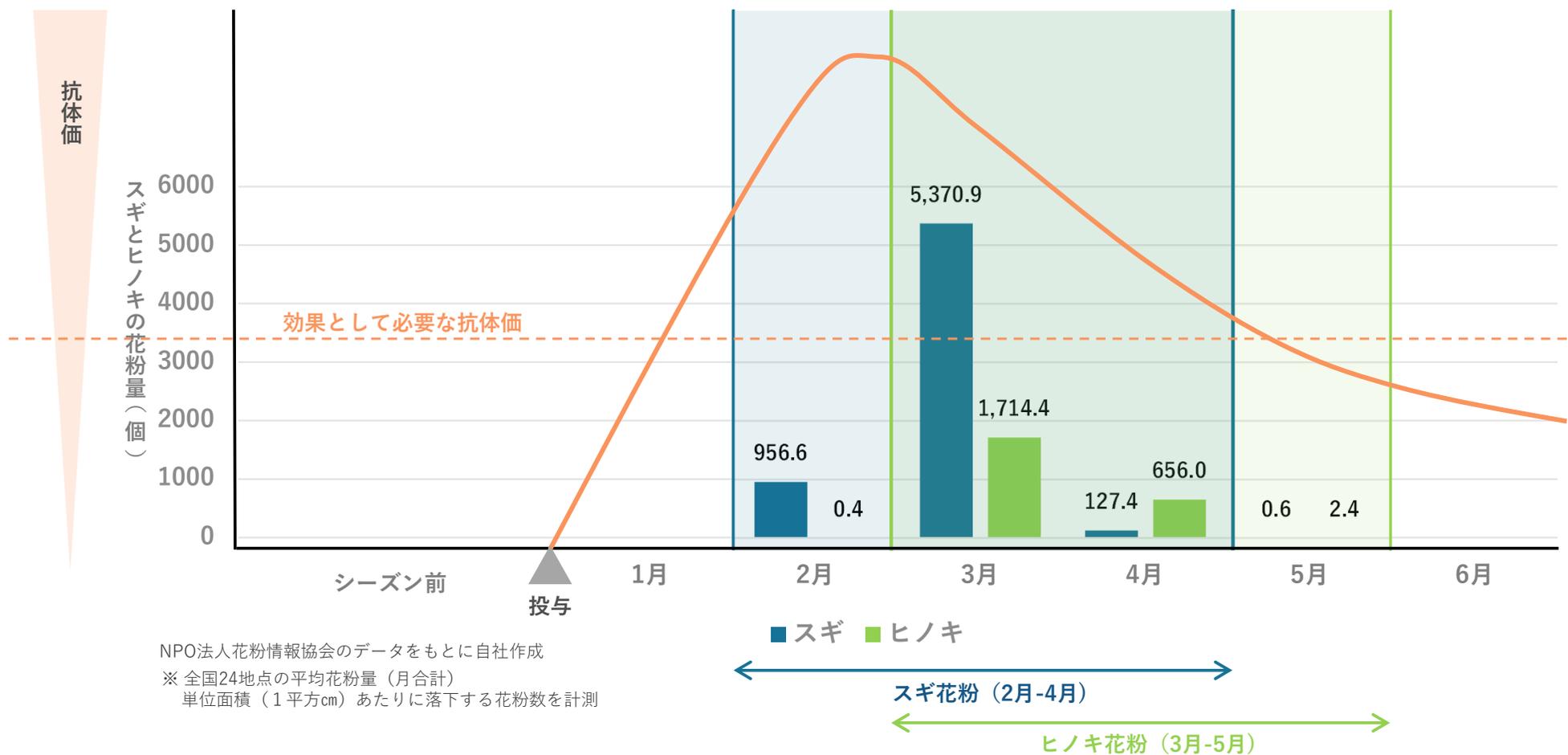
(出所) 松原 篤他. 鼻アレルギーの全国疫学調査 2019(1998年, 2008年との比較): 速報  
 -耳鼻咽喉科医およびその家族を対象として-. 日耳鼻 2020;123:485-490.

花粉症は、有病率の高さと症状の激しさから毎春、社会問題として各種メディアに取り上げられていて、  
 自然寛解が少ない疾患であることや、スギ花粉症の低年齢化などから、  
 さらに有病率の増加が危惧されている

免疫力を向上させる「AJP001」と標的タンパク質IgEのペプチドを結合させて、最適化した独自の「抗体誘導ペプチド」を体内に入れることにより、抗体を作り出す



## 【臨床で想定される投与時期と抗体価推移のイメージ】



### 【花粉症に対するアレルギーワクチンについて】

- ・花粉のシーズンの前に投与することで抗体ができる。
- ・効果の持続期間が長いというワクチンの特長により、シーズンを通じて、花粉症の症状を緩和できる。
- ・毎日薬を飲まなくても、1~2回投与することで、症状が抑えられるため患者さんの利便性が高くなる。

おわり



<http://www.funpep.co.jp>